

日本が誇る鍛冶文化を広め、後世に伝えたい

市内唯一の刀剣研磨師として、日本刀の研ぎと鑑定を手掛ける萩光明さん。人間国宝から受け継いだ技を今なお鍛錬しながら、日本刀の魅力と島田鍛冶の歴史を、市内外へ伝えていきます。

【伝統の世界に生きる】

「研師だった父を見ていて、『これしかない』と思い、同じ道を選んだんだ。高校卒業後すぐに、父の知人の紹介で、人間国宝の本阿彌流永山光幹師匠のもとに弟子入りできた。本阿彌流は、室町時代に將軍に仕えた、歴史ある刀剣研磨の流派。今まで続けてこれたのは、運良く師匠に出会えたから。師匠の最後の内弟子でもあり、全てを受け継ぎたいと思ったよ」



約18年間の修行の末、本阿彌流の免許皆伝。現在は、父の跡を継ぎ2代目として、現代刀から古刀まで、さまざまな日本刀の研磨を国内外から引き受けています。

「我々研師は、刀剣の錆や欠けを直すだけではない。研ぎ直して、刀の価値を引き上げるのが使命なんだ。刀を生かすも殺すも研ぎ次第。やり直しがきかないから、その分やりがいもあるのさ」

『刀剣女子』と呼ばれる、日本刀に関心がある女性も遠くから見に来てくれている。中には勉強してきて『地元の刀鍛冶の展覧会が開催されて超うれし。仲間にも自慢できる』と言ってくれた子もいたよ」



日本刀の美を追求する刀剣研磨師
萩光明さん（中溝町）

【「刀剣のまち島田」を誇る】

島田市博物館で開催中の企画展「島田の刀鍛冶と天下三名槍」で萩さんは、刀剣教室の講師だけでなく、ボランティアアガイドも務めています。「ゲームの影響もあって

地元の若者が島田鍛冶を学び、誇りに思ってくれたことに感動したと言います。昔、島田では、全国有数の刀鍛冶が活躍していた。こんなに誇れることを、市内でも知らない人が多いんだ。この

刀剣ブームを一過性のもので終わらせまいよう、少しでも刀の魅力を伝えたい。市民にこそ、その奥深さを感じてもらいたいね」

【日本刀の「美」に挑む】

「刀は本来、人をあやめる道具。なのに、日本人は優れた実用性だけでなく、そこに『美』が存在しないと満足しない。日本刀は、世界に誇れる『鉄の芸術品』なんだ」

春日大社や箱根神社に奉納される、国宝の研磨も手掛けた萩さん。現存する名刀は数少なく、それらを次代に引き継ぐ手伝いをするのも、研師の役目だと語ります。「いい研ぎとは、刀身に潤いがある、みずみずしい『晴れた』研ぎ。入門して45年たっても、極めるなんてまだ先。うぬぼれると技量がそこで止まってしまうから、この仕事は一生修行だね。だからいいんだ」

今の時代、刀を研いで生活できること自体が面白いと話す萩さん。日本刀を蘇らせ、新たな「美」を吹き込むべく、挑み続けます。



自宅にある作業部屋で日本刀を研ぐ萩さん

Shimadajin File #68

